



**IBARAKI TOYOPET
RACING TEAM**



**5戦は0周リタイア、第6戦は3周でバトル終了……
不完全燃焼感だけが残った鈴鹿大会**



FIA-F4 選手権シリーズ第5戦、第6戦
2018年5月19日～20日 鈴鹿サーキット（三重県）
晴れ 10周（35台出走）
ドライバー：平木 玲次
第5戦 予選15番手／決勝リタイア
第6戦 予選18番手／決勝12位



茨城トヨペットレーシングは今シーズンから GR 86/BRZ レースと併せ、インギングモータースポーツとジョイントして FIA-F4 選手権シリーズにも挑むこととなった。起用するドライバーの平木玲次選手は、チームを移籍して3年目のシーズンを戦う。

全7大会14レースの開催が予定されているシリーズ第3大会の舞台は鈴鹿サーキット。その予選と決勝レース第5戦が5月19日（土）に、決勝レース第4戦が20日（日）に行われた。

前回の富士では、平木選手が得意とする雨に予選は恵まれたこともあり、2番手と7番手という好結果を得た一方で、ドライコンディションに転じた決勝レースでは、好対照な結果となっていた。第3戦では順位を下げ、第4戦では順位を上げたのだ。しかし、いずれも平木選手にとって最上位となる5位でフィニッシュしたことで、上位の戦い方を学べたのは間違いない。そういった好感触を得た上で、短いインターバル、そして平木選手のフォーミュラデビューのサーキットでの戦いに臨むこととなった。

木曜日に行われた専有走行ではセッション2で8番手、金曜日の専有走行ではやはりセッション2で5番手につけて期待に答えていた平木選手。天気予報では早朝までとはいえ、雨が降ると告げられていたから、前述のとおりウェットコンディションを得意とする平木選手には、まさに予選が願ったりかなったりの状況になるはずだった。ところが、思いのほか雨は長く降らず、実際に予選が始まる頃の路面は、一部にウェットパッチを残すのみ。もちろん、ドライタイヤを装着してアタックを開始する。

だが、「ニュータイヤでのタイムの出し方が今ひとつでした」と平木選手。ベストタイムは1分7秒955で15番手、そしてセカンドベストタイムは8秒071とあって18番手に留まってしまう。しかしながら、8秒台をコンスタントにマークしていたとおり、「ユーズドタイヤでのタイムの出し方はまずまずなので、決勝では何としても追い上げます！」と力強く宣言してくれた。

15番手から平木選手がスタートする、第5戦決勝レースは完全なドライコンディションでの争いとなった。まずまずのダッシュを決めて、そのまま順位を上げていくことが期待されたものの、まもなくオープニングラップを終えようという頃、衝撃的な光景がモニターに映し出される。なんと平木選手がシケインの先でストップしているではないか……。

「シケインで前にいたクルマがインから行って、僕はアウトから抜きにかかったんですが、一つ目で横から当てられて、回ったところをもう一度当てられてしまって……。右の足回りが壊れてしまって、再び走ることはできませんでした」と平木選手。無念のリタイアを喫することとなった。

しかし、0周リタイヤということは、その分タイヤを使っていないということでもある。ご存知のとおりFIA-F4では予選から2レースを1セットのタイヤで戦わなければならないため、そのことは大きなマージンとなるはずだった。第6戦決勝レースは18番手からのスタートながら、平木選手のオーバーテイクショーに期待が込められていた。実際、スタートも完璧に決め、また1コーナーアウトからのアプローチも成功させ、オープニングラップを終えた段階で、3台抜きを果たして15番手に浮上。その後も前を行く車両に遅れをとることなく、逆転のチャンスをうかがい続けていた。

ところが、4周目の1コーナーで多重クラッシュが発生。1台がタイヤバリアに乗り上げるほどで、即座にセーフティカーがコースイン。アクシデントに見舞われたドライバー3人とも、無傷だったのはまさに不幸中の幸いと言えるだろう。しかし、そのことは平木選手にとっては、逆に不運すぎた。せっかく残っているタイヤのマージンを活かせることなく、いたずらにセーフティカーの先導が続いていたからだ。せめて1周だけでも、という平木選手の思いは届かず、規定により30分経過時にチェッカーが無情にも振られることとなった。先の3台がリタイヤしていたこともあって、平木選手は15位で第6戦を終えた。

なんとも悔しい思いだけが残ることとなった第3大会だが、第4大会は2か月半のインターバルを置いて、8月4～5日に富士スピードウェイで行われる。気持ちを切り替えるには、十分すぎる間隔である。リベンジに期待したい。

平木玲次選手のコメント



「不完全燃焼ですね、僕は特に2日で3周しかしていないので（苦笑）。予選が全てって毎回言っていますが、また下位になってしまったので、それがすべて昨日も今日にも響いちゃって……。第6戦は、スタート良かったですね、まずまずで、1周目も抜いてこれて良かったですけど、これからというところでセーフティカーが入ってしまい残念です。でも、次戦まで2か月開くので、その間にしっかり準備して行けるように。今回予選で遅かった原因もしっかり追求して、次につなげたいと思います」

